

# 動植物に関心を抱き、学び、憩える場所に

## おかげさまで開園50周年

昭和30年3月、国から西海国立公園の指定を受けた本市は、公園内に西九州初の動植物園の建設を計画しました。恵まれた自然環境の中に植物園と動物園を併設し、市民や観光客の皆さんに、動植物に対する親しみや関心を持っていただくこと、学習や憩いの場を提供することが園の目的でした。

石岳山麓は、対馬暖流の影響を受け冬場でも比較的温暖であるため、亜熱帯動植物の生育に適していることや、九十九島を一望でき景観にも恵まれていることから、現在の場所への設置を決定しました。建設工事は昭和33年4月に着工。一億二千万円をかけて36年3月に完成し、5月25日に「佐世保市亜熱帯動植物園」として開園しました。

平成に入ると一時は入場者数が減り閑散とした時期もありましたが、動物の生態を自然に近い状況で観察できる「行動展示」を取り入れたり、動物と来園者がふれあうイベントを毎週末行ったりしたことで、徐々ににぎわいを取り戻し、平成20年度には来場者数が約20万人にもなりました。長年にわたり市民の皆さんから温かいご理解とご支援をいただき、ことしで開園50周年を迎えることができました。

### 「西海国立公園九十九島動植物園」として進化を目指す

動植物園では節目となる50周年を機に、名称を「佐世保市亜熱帯動植物園」（愛称・いしだけ動植物園）から「西海国立公園九十九島動植物園」（愛称募集中）に変更しました（4月1日付け）。これは九十九島水族館と一体となって九十九島の魅力を広くアピールするとともに、自然豊かな動植物園というイメージを持つとともに、県外からの集客を増やすことなどを目的としたものです。その一環として、「海きらら」と「動植物園」のお得な共通利用券「ニコ割チケット」の販売を始めるなど新しい取り組みも進めています。

今後も多くの皆さんに「行ってみたい」「また行きたい」と思っていただけのような取り組みを行っています。



タイから園に来て間もないころのハナ子（推定3歳）。名前は公募で決まり、当時の広報紙では「体重は260kgと、大相撲名古屋場所優勝した高見山より100kgも多い」と紹介されています。暑い夏も元気に過ごせるように、専用プールを作りました（昭和47年）



開園25周年を記念し、東京都の多摩動物園からペアで来たキリン。ゴールデンウィークには約2万8000人が見物に訪れました（昭和62年）



長野県で保護されたニホンツキノワグマを引き取り人工哺育しました（平成19年）



昨年から県内初となるツシマヤマネコツシマヤマネコの繁殖事業に取り組んでいます

### 年表でたどる

#### 50年の歩み

昭和32年	3月	亜熱帯動植物園基本計画を決定
昭和33年	4月	起工
昭和36年	3月	竣工。建設費約一億二千万円
昭和37年	5月	開園（年間入園者数26万4千人を記録）
昭和40年	5月	香川県の動物園からトラの子ども2頭来園
昭和40年	5月	秩父宮妃殿下が来園。ワシントンヤシの幼木を記念植樹
昭和41年	4月	栽培温室増築工事
昭和42年	2月	シカ舎新設工事
昭和42年	7月	子ゾウ「岳子」が三重県の動物園から来園
昭和46年	12月	子ゾウ「岳子」病死
昭和47年	7月	子ゾウ「ハナ子」がタイから来園
昭和47年	8月	密出国時に保護されたオランウータン来園
昭和50年	5月	負傷鳥獣受け入れ開始
昭和52年		テナガザル舎、ニホンザル舎新築
昭和53年		園管理事務所、遊具舎新設
昭和54年		観賞温室、植物管理棟、園内食堂、動物病院新設
昭和57年	12月	ヒトコブラクダ来園
昭和59年	7月	チャップマンシマウマ来園
昭和61年	3月	ジャイアントパンダはく製展示
昭和62年	11月	開園25周年725万人来園セレモニー、アミメキリン2頭来園
昭和61年	2月	ベネットワラビー来園
昭和61年	2月	ミーアキャット、アライグマ来園
平成3年	3月	ペンギン、アライグマ舎完成
平成3年	11月	開園30周年記念式典。レッサーパンダ来園（年間来園者数23万4千人を記録）
平成8年	4月	水再生処理施設、コンポストシステム稼動
平成8年	9月	アルダブラゾウガメ来園
平成9年	5月	動植物園応援隊「サザンボ」結成
平成10年	10月	バラ園改修、園路バリアフリー化
平成10年	10月	福祉施設で「移動動物園」開催
平成11年	3月	ニホンコウノトリ来園
平成11年	11月	負傷鳥獣保護施設「レスキューセンター」完成
平成16年	1月	学習ホール竣工
平成18年	10月	日本植物園協会から「生物多様性保全拠点園」の指定を受ける
平成19年	2月	長野県で発見されたニホンツキノワグマ2頭保護
平成20年	4月	年間パスポート「ZOOとバスポ」発売開始
平成20年	8月	「夜の動植物園」開催
平成22年	4月	ふれあい体験広場完成
平成22年	7月	ツシマヤマネコのオス2匹を対馬市から、メス2匹を福岡市から受け入れ、県内初の飼育下繁殖事業に取り組み
平成22年	3月	長崎県固有の馬・対馬馬来園
平成22年	7月	来園者数一千万人突破
平成23年	4月	園名を「西海国立公園九十九島動植物園」に変更。ツシマヤマネコ舎完成。「モンキーゾーン」「ニホンザル、ワオキツネザル」展示舎完成
平成23年	5月	動植物園開園50周年

# 「生かさんばいけん」の

## 思いで奮闘した日々

元市亜熱帯動植物園飼育員

河野 英夫さん



### 福岡市動物園から

#### ライオンと一緒に佐世保へ

昭和35年、福岡市動物園へ就職し、飼育員として働くことになりました。ところが半年も経たないうちに、園長から「今度、佐世保に動植物園が開園するから、行ってくれないか」と言われたんです。飼育の知識も経験もほとんどなかったのですが、わずかな時間で佐世保に展示される動物のことを勉強しました。福岡から佐世保へライオン2頭を寄贈することになったので、そのトラックに乗って開園2日前に佐世保に来たんですよ。

### 子ゾウがやって来た!

#### 奮闘する日々と悲しい別れ

昭和42年、佐世保にゾウが来ることが決まりました。動物の飼育ではゾウが一番難しいと聞いていたので、飼料の草をたくさん刈って待っていたら、やってきたのは何と子ゾウだったんです。「岳子」と名付けましたが、岳子は鳴くばかりで何も食べない。牛乳を与えても飲まない。どうしようと悩んだ末、豆乳を与えてみようと思いつきました。子ゾウと言っても体重は100kg近くあるので、飲ませ方をいろいろ試した結果、豆乳をバケツに入れ点滴などに使うチューブをくわえさせたら、それで吸って飲んでくれた。ひと安心しましたね。

岳子はどんどん大きくなり、園で一番の人気者になりました。ところが入園から4年たったある日の朝、岳子は元気がなくなり、その日のうちに死んでしまいました。肺炎にかかっていたんです。それに気付かず、十分な治療ができなかった。元気に走り回っていた姿をもう見ることができないと思うと、とても悲しくて、そのとき初めて「飼育員を辞めたい」と思いました。しかし園ではすぐに次のゾウを入れることが決まり、仕事を続けることにしました。そして約半年後、今の「ハナ子」が園にやってきたんです。

### 飼育も獣舎管理もすべて手探り

開園から数年間、飼育員はわたしを含め2人だけでした。2人とも知識も経験もほとんどない。獣医師もいない。新しい動物が次々に入ってきて、飼育方法や獣舎の管理などすべてが手探りの状態でした。やっつては壁にぶち当たり：その繰り返しで、仕事に追われる毎日。当時は資料も少なく、本をたくさん買って調べたり、ほかの動物園に尋ねたりしました。

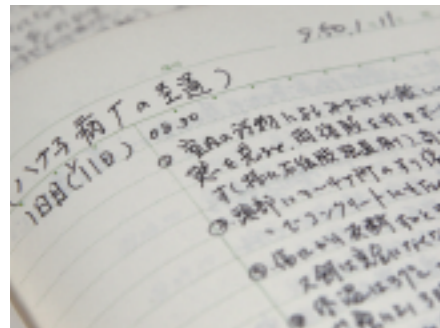
### ハナ子は死なせない!

#### 必死の看病 通じ合う心

ハナ子は子ゾウのときにタイから来ましたが、岳子の飼育で得た知識と経験を生かし、飼育は順調でした。

ところが、ハナ子も5年くらいたったとき、岳子と同じ病気にかかり、体が麻痺して餌が食べられなくなりました。わたしは二度と悲しい思いはしたくなかったので、1カ月ほど園に泊り込んで必死に看病し、病歴の経過をノートに細かく記録して観察を続けました。嘱託獣医師の親切丁寧な治療を受け、薬が効き、そして何よりハナ子の強い生命力で無事回復しました。

それ以降もハナ子は、毎朝わたしが獣舎に来るのを待っていて、「おーい、おはよう」と声を掛けて近づくと、涙をポロツと流すんです。園内のどこかでわたしの声が聞こえれば、その方向を向いて待っていたり、わたしが獣舎に来るときや足音を覚えて待っていたり。わたしもそんなハナ子の気持ちがよく分かるようになりました。それくらい心が通じ合っていたんです。



分刻みで記録されたハナ子の病歴の経過



飼育員時代の河野さんとハナ子



福岡から来た元同僚たちと一緒に子グマを囲む河野さん(左から2番目)

です。ハナ子とは家族同然に向き合い、精魂込めて飼育しました。

### とにかく一生懸命やる あとは動物が教えてくれる

わたしはゾウ以外にも、ライオンやクマ、ヘビなどたくさん動物を飼育しました。さまざまな苦労や困難に直面しましたが、動物を「生かさんばいけん」という思いが強かったです。自分が努力して動物を良い状態に飼育すれば、市民は喜ぶし、市のためにもなるし、自分も嬉しい。飼育の仕事で最も大事なことは、とにかく動物を一生懸命管理し、常に観察し、把握しておくことです。そうしたら動物は応えてくれて、いろいろ教えてくれるんです。そうやって良い関係を築いていく。自分がやればやるだけ「やりがい」が出てくる仕事なんです。だから飼育の知識も経験もゼロからスタートしたわたしですが、定年まで38年間も仕事を続けることができました。だと思います。

### あゆみの この一枚



園内を走り、子どもたちに大人気だった豆電車「こだま」(昭和37年)



建設途中の動植物園(昭和34年)



人工哺育したライオンと触れ合いタイム(昭和58年)



スケッチ大会で家族と一緒に絵を描く少女(昭和41年)



すべての生き物は「食物連鎖」というピラミッドの中で、生きるために餌を捕ったり、敵から身を守ったりしながら懸命に生きています。当然、わたしたち人間もほかの生き物たちの命の上に生かされています。動物の展示を通して、人間の命が植物や動物の命と密接につながっていること「絆」を伝えていくことは、動物園が担う重要な使命の一つです。その使命を果たし続けていくために、これからもさまざまな角度から取り組んでいきたいと考えています。

## もつともつと愛される 動物園を目指して

西海国立公園九十九島動物園 園長 野村 成人

ことし7月には、九州初の巨大雲ていが目を引く新しいモンキーゾーンの全面供用開始を予定しています。さらに平成25年には、新しいペンギン館がオープン予定です。また、お客さまにもつと喜んでいただけるように、スタッフ一同「ふれあい」をキーワードに、イベントなどの充実にも取り組んでいます。ご来園の際は、ぜひ、わたしをはじめスタッフに気軽に声を掛けてください。スタッフしか知らない動物のヒミツなどを知っていただくことで、新たな魅力を発見していただくと思います。

次の50年に向け、多くの人に「また行きたい」と思ってもらいたく、そして、もつともつと愛される動物園を目指していきますので、今後も市民の皆さんの応援をよろしく願います。

スタッフ一同、皆様のご来園を心からお待ちしています。

皆様のご来園をお待ちしています!



ニホンザルの展示施設(ビューイングシェルター)が、4月3日に完成しました。吊りロープなどの遊具を使って飛び跳ねたり、水辺で遊んだりするサルたちのいろいろな動きを間近で見ることができます。

普段は入ることができないゾウやライオンの獣舎に入る「猛獣探検隊」は子どもにも大人にも大人気です。毎週土・日曜、祝日 11:00~11:30 (先着20人、1人200円)

開園50周年記念  
大感謝祭  
5月21日(土)~31日(日)



### ①開園当時の料金を再現!

高校生以上400円⇒60円  
小・中学生100円⇒30円  
※団体割引はありません。

入園料  
60円

### ②オリジナルグッズをプレゼント!

期間中にアンケートにお答えいただいた人の中から抽選で50人にオリジナルグッズが当たります!

### ③花苗などの詰め放題を実施!

1人500円 ※花苗がなくなり次第終了。

### ④50周年記念プレゼント!

開園記念日である5月25日(日)に来園された先着50人に記念品をプレゼントします。

### 4月から7月までの主なイベント

- 4月 園内リニューアル第1弾  
ツシマヤマネコ展示舎、モンキーゾーン(雲てい部分除く)、ヘビ展示舎がオープン
- 5月 春のローズフェスティバル (5月7日~29日)  
開園50周年大感謝祭 (5月21日~31日)
- 6月 両生類・爬虫類展 (6月11日~26日)
- 7月 園内リニューアル第2弾  
モンキーゾーン(雲てい部分)オープン  
開園50周年記念式典

※イベント内容などは次号以降に随時お知らせします。

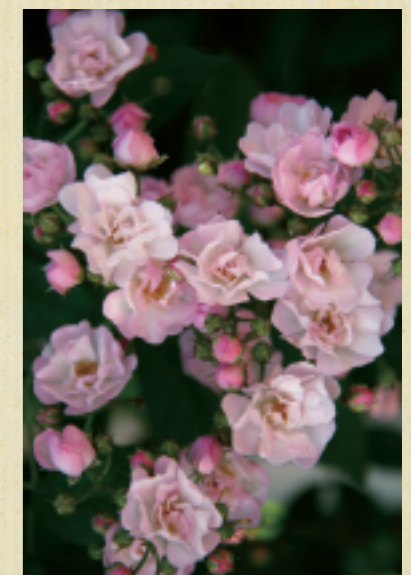
📍九十九島動物園 ☎28-0011



「ふれあい体験広場」では、小動物とのふれあいや長崎県の固有種である対州馬の乗馬、ヤギやヒツジへの餌やりが体験できます。(毎週土・日曜、祝日開催)



4月に待望の「ツシマヤマネコ展示舎」が完成しました。写真は市民に初めて公開したオスの「たから」で、少し緊張気味の様子です。(体調管理のため、時間を限定して公開しています)



園内にはドーム型の観賞温室をはじめ、至るところに植物を植栽しています。特にバラ園では150品種800株のバラを栽培しており、開花シーズンの春と秋には、園内がバラの香りに包まれます。